

『柏市図書館のあり方』の実現に向けた 柏市図書館再編構想の策定方針

令和8年2月

柏市教育委員会 生涯学習部 図書館

1 本方針の作成目的

柏市立図書館は、現在、1本館・17分館・1サービスポイント（＝うらぽーと柏の葉に設置する貸出返却サービス専用の窓口）からなる、全国的に見ても分館数が多い図書館網を有しています。この図書館網は、「身近な場所で図書館サービスを利用できる」ことを目的に整備してきたものです。

一方で、本館及び分館は、「書架が中心」「座席が少ない」などの理由から、目当ての本を借りることを目的としない市民にとっては、利用動機に乏しいという課題があります。今後、市では老朽化が進む図書館本館や、多くの分館が入る近隣センターの建替や改修等を順次検討していく予定です。このことは、図書館網や空間機能が抱える様々な課題を改善し、市民の皆様に「必要とされ、訪れたくなる図書館」への変革を進める大きな機会となります。

市では、平成31年2月に図書館の運営方針である『柏市図書館のあり方』を策定し、その中で将来の図書館像や目標を示してきました。今後は、将来の柏市の人口や財政状況、老朽化する公共施設等の課題及び方針などを踏まえた上で、「『柏市図書館のあり方』の実現に向けた柏市図書館再編構想」の策定を進めていく予定です。

策定にあたっては、市が考えている将来の図書館の方向性を示し、市民の皆様と一緒に考える機会を設けて、新しい図書館をつくりたいと考えています。そのため、本方針を作成しました。

2 本方針作成にあたっての関連計画

(1) 『柏市図書館のあり方』

基本理念や基本方針等の本市図書館の運営方針について、ワークショップ等を通じて市民の皆様からご意見をいただき、平成 31 年 2 月に策定したものです。

ア 基本理念

学ぶこと（学び）、分かちあうこと（共有）、創りだすこと（創造）を支え、
「ひと」と地域を育みます

イ 基本方針

1. 生涯を通じて学び、生きる力を獲得することを支えます
2. 資料・知識・経験等の共有と学び合いの場を提供し、ゆるやかなつながりを育みます
3. 新しい価値を生み出す創造的な活動を支え、ひとづくり・地域づくりを育みます

また、今後の図書館運営の課題について、「財源と業務効率化」「資料収集」「図書の分散問題と本館・分館の役割」「分館の方向性」を挙げています。

(2) 『柏市第六次総合計画』

総合計画とは、地方自治体がまちづくりに関する将来のビジョンや目標を定め、それを実現するための総合的かつ計画的な行政運営の指針で、各分野の関連部門計画の最上位の計画となるものです。計画策定にあたっては、柏市の将来推計人口や財政の見通し等を踏まえています。

令和 7 年 3 月に策定された『柏市第六次総合計画』が掲げるビジョンや目標は以下のとおりです。

ア 将来の姿

「柏に関わる一人ひとりが想いを実現できるまち」

イ 基本的な目標

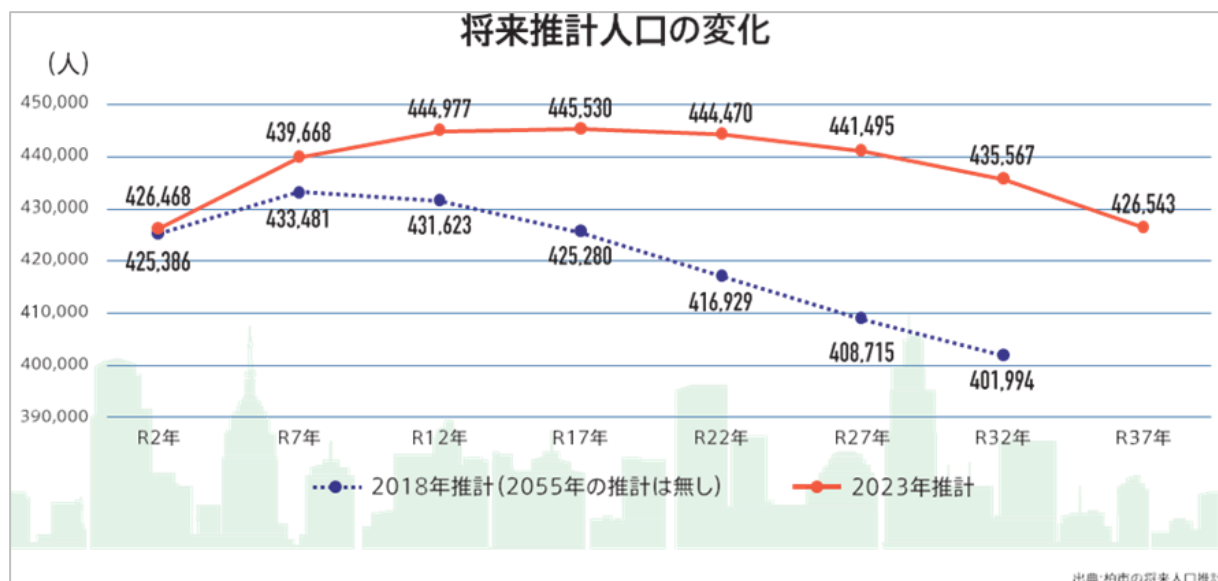
1. もっと、創造的なまちへ
2. もっと、居心地のよいまちへ
3. もっと、地域の個性が輝くまちへ

ウ 重点テーマ

1. 全世代に向けた学び・健康・社会参加
2. エリアごとの特徴を生かした地域経済・産業の振興
3. 未来に備える防災・減災と気候変動対策

(参考1 柏市の将来推計人口)

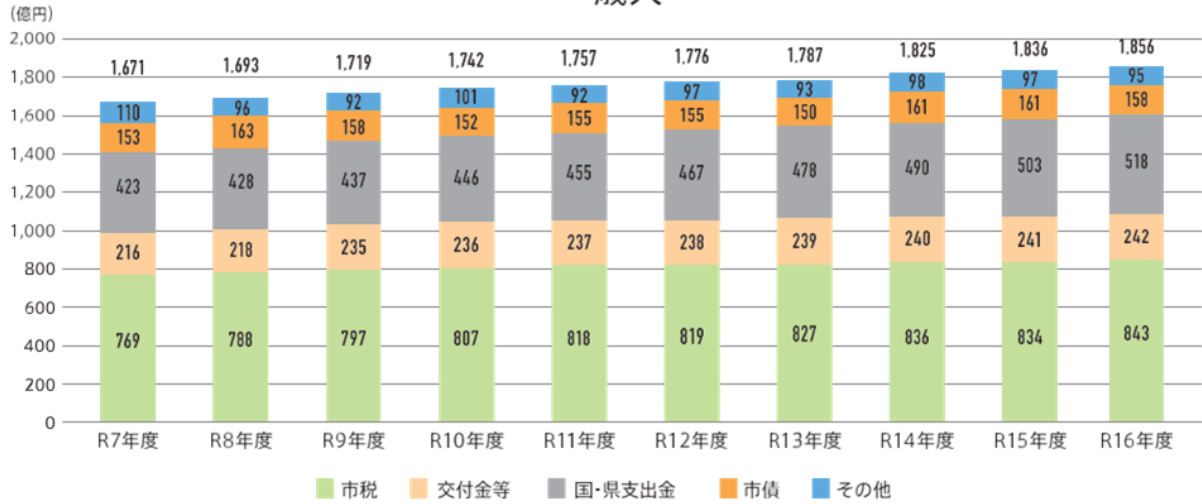
2035年(令和17年)に人口のピークを迎えるとともに、年少・生産年齢人口の割合は低下し、2040年(令和22年)には老年人口の割合が全体の3分の1を占めるものと推計されています。



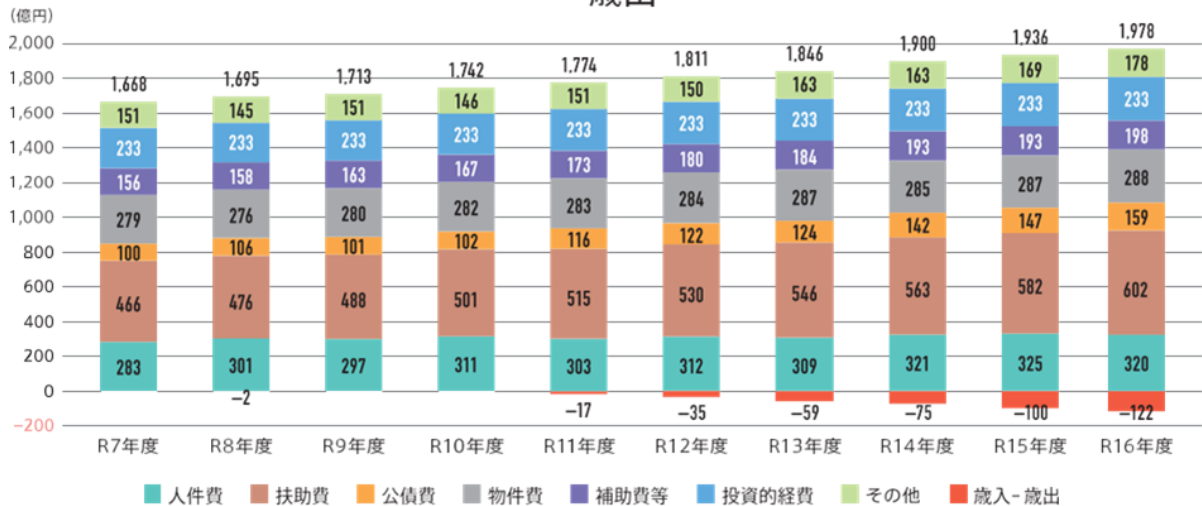
(参考2 柏市の財政の見通し)

歳入は、生産年齢人口の推移などから、市税の一定の増加が見込まれます。一方、歳出は、少子高齢化の進行に伴い、社会保障関係費が増加する見通しです。

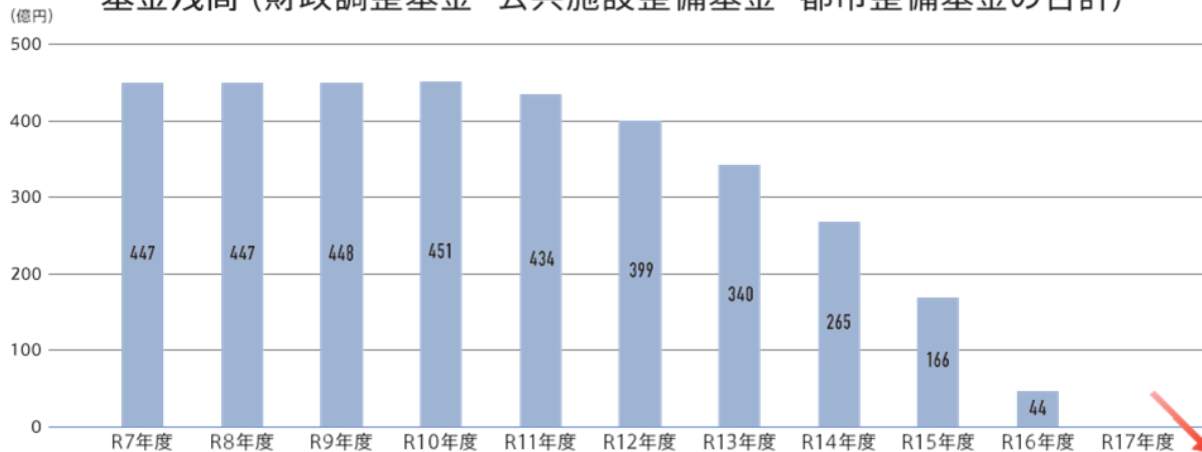
歳入



歳出



基金残高 (財政調整基金・公共施設整備基金・都市整備基金の合計)



(3) 『柏市公共施設等総合管理計画 第2期計画』

公共施設等総合管理計画とは、各地方自治体が所有する全ての公共施設等を対象に、地域の実情に応じて、総合的かつ計画的に管理する計画のことです。令和7年3月に策定された『柏市公共施設等総合管理計画 第2期計画』では、建築物系施設の管理に係る基本方針として、

1. 施設機能の再編と総量の適正化
2. 施設の計画的・予防的な適正保全の実施
3. 財産の活用と管理運営費の縮減

を掲げています。

この計画の中で図書館は、

- 老朽化に加え、本及び利用者を取り巻く社会環境が大きく変化していることから、市民ニーズの変化を捉えて、各施設及び図書館サービス・機能の整備・整理を行っていく必要がある。
- 施設の更新・統廃合・長寿命化などを検討する際は、将来の人口動態や財政規模を踏まえて、持続可能な計画とすることが不可欠。
- （『柏市図書館のあり方』で示す）本館への集中的配架、分館の機能見直し等の検討を行う。
- 分館は、近隣センターの整備方針と整合を図りながら、整備・整理を行う。

等の今後の方向性を示しています。

表1 図書館の再編スケジュール

（『柏市公共施設等総合管理計画第2期計画』記載の個別施設再編方針より）

No.	施設名	第1期 H28(2016)～ R6(2024)	第2期 R7(2025)～ R16(2034)	第3期 R17(2035)～ R26(2044)	第4期 R27(2045)～ R36(2054)	備考
1	本館					中央図書館整備を検討
2	豊四季台分館					豊四季台近隣センターの移転複合化、または建替に合わせて近隣センターに移転・整備
3	田中分館					田中分館近隣センターの移転複合化、または建替に合わせて整備
4	西原分館					西原近隣センター建替に合わせて整備
5	南部分館	改修				令和元年度に改修。南部近隣センターの整備方針に合わせる
6	布施分館					布施近隣センターの移転、または建替に合わせて整備
7	永楽台分館					永楽台近隣センターの移転複合化、または建替に合わせて整備
8	増尾分館					増尾近隣センターの長寿命化に合わせて整備
9	光ヶ丘分館					光ヶ丘近隣センター建替に合わせて整備
10	新富分館					新富近隣センターの移転複合化、または建替に合わせて整備
11	高田分館	改修				令和5年度に改修。高田近隣センターの整備方針に合わせる
12	根戸分館					根戸近隣センターの整備方針に合わせる
13	新田原分館					新田原近隣センター建替に合わせて整備
14	松葉分館					松葉近隣センター建替に合わせて整備
15	藤心分館					藤心近隣センター建替に合わせて整備
16	沼南分館					沼南近隣センターの再整備に合わせ、令和12年度を目途に整備
17	高柳分館					市全体の図書館機能を踏まえて整理・整備を検討
18	こども図書館					沼南近隣センターの再整備に合わせ、沼南分館との統合の検討及び図書館機能を整理・整備
	柏の葉分館					柏の葉近隣センターの整備に合わせ、令和11年度を目途に整備

3 本市図書館の現状

(1) 各館の築年数、面積等

表2に示すとおり、多くの施設は築40年以上が経過しており、設備も含めて老朽化が進んでいます。また、面積については、本館は中核市等の自治体と比較しても小さく、座席数や配架数が少ないほか、目当ての本を読む・借りる目的以外に訪れる動機が乏しいという課題があります。さらに、多くの分館は200㎡以下の面積で、貸出し以外の機能を充実させる余地が限られています。

表2 図書館施設概要

(『公共施設等総合管理計画 第2期計画』記載の施設一覧表より)

■ 築40年以上

No	施設名	中圏域	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度	築年数 (年)	複合施設 近隣センター	備考
1	図書館本館	中央2	柏市柏五丁目8-12	2,269.11	S50	47		
2	図書館豊四季台分館	中央1	柏市豊四季台一丁目1-111	198.52	S40	57		
3	図書館田中分館	北部1	柏市大室249-1	172.00	S53	44	●	田中近隣センター内に設置
4	図書館西原分館	北部1	柏市西原三丁目2-48	105.00	S53	44	●	西原近隣センター内に設置
5	図書館南部分館	南部1	柏市新逆井二丁目5-13	264.20	S53	44	●	南部近隣センター内に設置
6	図書館布施分館	北部2	柏市布施1196-5	196.00	S54	43	●	布施近隣センター内に設置
7	図書館永楽台分館	中央2	柏市永楽台二丁目11-25	132.00	S54	43	●	永楽台近隣センター内に設置
8	図書館増尾分館	南部1	柏市増尾三丁目1-1	168.00	S55	42	●	増尾近隣センター内に設置
9	図書館光ヶ丘分館	南部2	柏市光ヶ丘団地200-5	187.00	S56	41	●	光ヶ丘近隣センター内に設置
10	図書館新富分館	中央1	柏市豊四季945-1	165.00	S56	41	●	新富近隣センター内に設置
11	図書館高田分館	北部2	柏市高田693-2	137.00	S57	40	●	高田近隣センター内に設置
12	図書館根戸分館	北部2	柏市根戸467	118.00	S43	54	●	根戸近隣センター内に設置
13	図書館新田原分館	中央2	柏市東柏二丁目2-15	110.00	S59	38	●	新田原近隣センター内に設置
14	図書館松葉分館	北部2	柏市松葉町四丁目11	205.00	S62	35	●	松葉近隣センター内に設置
15	図書館藤心分館	南部1	柏市藤心四丁目1-11	147.00	S62	35	●	藤心近隣センター内に設置
16	図書館沼南分館	沼南	柏市大島田440-1	380.00	S52	45	●	沼南近隣センター内に設置
17	図書館高柳分館	沼南	柏市高柳1652-10	127.00	H6	28	●	高柳近隣センター内に設置
18	図書館こども図書館	沼南	柏市大島田48-1	473.00	S40	57		沼南庁舎内に設置
合計				5,553.83				

* 築年数は、令和4年現在

(2) 利用状況

全国的に公共図書館の利用者等は減少傾向にありますが、本市の図書館利用も年々減少しています。貸出冊数のうち一般書は、10 年前の約 7 割に減少しています。一方、児童書についてはほぼ横ばいとなっています。

- 利用者数 平成 27 年度：約 65 万人 → 令和 6 年度：約 53 万人
- 登録者数 平成 27 年度：約 8 万 5 千人 → 令和 6 年度：約 6 万 5 千人
- 貸出冊数 平成 27 年度：約 205 万冊 → 令和 6 年度：約 166 万冊
 - うち一般書 平成 27 年度：約 129 万冊 → 令和 6 年度：約 91 万冊
 - うち児童書 平成 27 年度：約 76 万冊 → 令和 6 年度：約 75 万冊

なお、文化庁の令和 6 年度「国語に関する世論調査」の「日本人の読書状況」によると、紙の本を読む時間は減少している一方で、スマートフォンなどの電子機器を通じて情報に触れる時間は増加しており、情報の入手手段や本の利用方法が大きく変化していることがうかがえます。

4 図書館再編の基本的な考え方（これからの図書館の役割と機能について）

この考え方は、第2項で挙げた『柏市図書館のあり方』をはじめとする各計画や、第3項で挙げた本市図書館の現状に加え、柏市図書館協議会での議論等を整理した上で作成しました。

(1) 図書館全体——「みんなの居場所」になる図書館へ

多くのかたは「図書館は静かに本を読む場所、本を借りるための場所」というイメージを持っていると思います。現在の柏市立図書館もそのようなイメージに沿った施設となっていて、面積に関わらず限られた空間にできる限り多くの本を配架して、最小限の座席数を確保しています。その結果、インターネット等で多くの情報を得られることと相まって、図書館を利用する機会が減少していたり、また、図書館に対するニーズの変化に対応できていないと考えられます。

そのため、今後の図書館は、本を読む・借りるだけでなく、これまで図書館を利用していなかった人も訪れやすく、訪れたい場所として、様々な学びや使い方をしたくなる「みんなの居場所」となることが期待されます。

(2) 本館（中央図書館）——市民の生活と文化的活動を支え、交流や新たな価値を生み出す拠点とする

『柏市図書館のあり方』では、市内の図書館に蔵書が分散しているため、体系的な情報提供を行う図書館としての特長が十分に発揮できていない点が指摘されています。そこで、本館として、市民の生活と文化的活動を支え、交流や新たな価値を生み出す拠点を目指し、アクセス性の良い柏駅周辺に新たな施設を整備し、必要な調査や学習のための市が所蔵する資料をできるかぎり集中的に配架することを検討します。また、訪れる人が自然に本を手に取りたいくなるような、本が魅力的に配置されていることが望まれます。

また、本館は中央図書館として豊富な資料を持つことで、次のような役割を担うことが期待されます。

- 市民一人ひとりの楽しみ、学び、課題の解決を支え、可能性を広げる

本に触れる楽しみを感じる、知りたいことを学ぶ、暮らしや仕事の課題を調べ

るなど一人ひとりの思いを実現することを支えます。また、アートやものづくりなどの創造的な活動を支援することで、個々の可能性を広げ、新たな挑戦の後押しをします。

- 地元を知り、発見することで、地域の個性を輝かせる

柏の自然、歴史、美術、産業などの地域資料や文化資源を集め、分かりやすく提示することで、「ここに来たら柏のことが分かる」場所にします。地域の成り立ちから現在の様子までをいつでも紐解けるようにすることで、地域の魅力を知り、発見できる機会を提供します。地域情報の発信、展示・講座の開催などを通じて、柏という地域の個性を輝かせることにつなげます。

こうして、「本と人」「人と人」「人と柏」「柏と世界」がつながり、知と創造が行き交う場所になっていくことが望めます。

施設空間については、(1)の「みんなの居場所」になる図書館の考え方を踏まえ、「静かに本を読み、勉強に集中できる『静』の空間」と、「会話やグループ学習などの学び合いができる『動』の空間」などを設けて、十分な座席数を確保するほか、多様な活動やニーズに対応できることが期待されます。

(3) 既存の分館——地域の「つながりの場」とする

『柏市図書館のあり方』では、分館の役割や方向性として「地域の多世代のかたが出会い、交流できる場として、コミュニティ形成の機能を担う」ことが示されています。これは、分館の多くが設置されている近隣センターの設置目的とも重なるところです。しかし、各分館の面積は小さく、限られたなかで可能な限り本を並べているため、貸出し以外の機能を十分に担いにくい状況です。

こうした方向性や現状、さらに(1)で示したニーズの変化と「みんなの居場所」としての考え方を踏まえ、分館では貸出返却サービス専用の窓口を中心としつつ、資料を配架している現在の空間を、来館者が居心地良く過ごしたり、地域の交流の場となるなど、様々な使い方ができる場所へと機能転換することを、近隣センターの改修とともに進めます。

さらに、地域ごとのニーズを踏まえ、次のような機能などを整備することも考えら

れます。

- 貸出返却，利用登録，蔵書検索などの基本サービス
- 乳幼児から高齢者まで，本を読んだり会話を楽しんだり，思い思いに過ごせる場所
- 小さな子がはじめて本に触れる“図書館デビュー”のきっかけとなる場所
- 地域の人が集まり，共に学び合える場所
- 近隣センターや地域団体，学校などと連携した，地域の学び・文化活動の拠点
- 身近な地域への新たな発見や理解につながる情報に出会える場所
- 本を持ち寄り読み合える“みんなで作る本棚”
- 施設によっては分館との仕切り壁を設けず，空間を隔てない「近隣センターとの融合化」

その他，老朽化しているこども図書館の移転，統合，集約や，柏の葉近隣センター建設（後述）後のサービスポイント柏の葉の廃止が考えられます。

(4) 図書館網の再構築——拠点館の必要性

現在の「1本館・17分館・1サービスポイント」体制は，一見すると「図書館がたくさんあって便利」に見えますが，実際には「図書が分散することにより，探していた本や読みたい本と出会う機会が減少」することや，先に述べた「図書館の特長である網羅性と専門性が十分に発揮できない」ことなどの弊害が指摘されています。

これを踏まえ，本館については「資料を集中的に配架し，様々な活動やニーズに対応できる機能を備える」こと，分館については「貸出サービスを中心としつつ，資料を配架している空間を，来館者が居心地良く過ごせ，本を読むこと以外にも様々な過ごし方ができる場所へと機能転換する」という方向性を示しました。

しかし，本館1か所に資料や機能を集中させることは，本館利用の集中化を招き，地域によっては本館までの距離が遠く，本を身近に感じにくくなるなど，新たな図書館への転換によるデメリットが生まれることも想定されます。一方で，全ての分館を拡大・充実化することは，財政運営の視点等を踏まえると現実的ではありません。

そこで、このようなデメリットによる影響を緩和しつつ図書館サービスの向上を図り、また、限られた財源等の中で整備を行うこと、柏市第六次総合計画や柏市公共施設等総合管理計画が示すまちづくりの方向性、公共施設の配置状況や交通網等を踏まえて、今後建設される予定の「柏の葉近隣センター」及び「沼南近隣センター」に、エリアのハブ（中心）となる「拠点館」を設置し、新たな図書館網を構築します。

拠点館は、「みんなの居場所」となることを前提に、一定量の資料配架や座席数を備える空間を確保するとともに、本館の方向性である「静と動の空間」、学びのスペース等の機能を備えたり、各エリアの特性を踏まえた資料配架や展示等により特色を持たせることが考えられます。

(5) 将来の図書館に必要な機能の整備

ア インクルーシブデザイン

新たな図書館は、障害の有無、年齢や性別などにかかわらず、誰もが安心して利用できるインクルーシブな施設を目指します。

例えば、

- 段差の少ない動線や分かりやすいサインの整備
- 小さな子どもや外国籍のかたにも理解しやすい、やさしい日本語による案内
- 音声読み上げ機能や大活字本など、多様なニーズに対応した資料・機器の整備

などを、当事者の方とコミュニケーションを図りながら進めます。

イ ICT

読みたい本を探し、新たな本に出会う機会の創出などの利便性の向上、本館・拠点館・分館の連携を強化するなどの運営管理の強化・効率化等を図るため、ICTの導入・活用を推進します。現在も、電子図書館やオンライン検索システム、デジタルコンテンツの活用等を行っていますが、これらの充実とともに、

- ICタグを活用した蔵書管理
- 自動貸出・返却システム

- A Iを活用したレファレンスサービスなどの導入についても期待されます。

(6) 将来の図書館に必要な人材の配置等

(1)から(5)までは、主に施設や機能の考え方について示すものですが、市民の活動を支え、図書館をより魅力的な場所として企画・運営する人材も不可欠です。従来の司書の専門性に加えて、コミュニケーション、ファシリテート、コーディネート、クリエイティブ等の活動に強みを持つ人材の配置が望まれます。また、図書館の様々な活動について、地域・市民が担う、協働することが期待されます。

5 「図書館再編の基本的な考え方」の市民との共有，意見聴取

図書館は、市民一人ひとりの学びや暮らしに深く関わる施設です。その再編を進めるにあたっては、行政だけで決定するのではなく、市民の皆様とともに考え、つくり上げていくプロセスが不可欠です。

令和 8 年度には、例えば、次のような取組などを組み合わせながら、図書館に対する思いや考えを幅広く伺い、一緒に将来の図書館を描きたいと考えています。

■市民ワークショップ等の開催

例えば、「こんな図書館だったら行ってみたい」「図書館でこんなことをしてみたい」などをテーマに、対話やアイデア出しを行う機会を、様々なかたちで行うことを検討します。

■市民の意見聴取の機会

アンケートや、市民の皆様からいただいた意見を踏まえて作成する『図書館再編構想（案）』に対するパブリックコメントの実施などを検討します。

■図書館の先進事例を学ぶ講演会

例えば、国内外の先進的な図書館や、図書館を核としたまちづくりの事例を紹介する講演会を開催し、「図書館でこんなことができる」「柏にはこんな図書館があったらよい」といったイメージを市民の皆様に広げていただく機会となることを検討します。

■柏市立図書館協議会

学識経験者や市民が委員として参加する柏市図書館協議会において、再編の考え方や具体的な内容について、継続的に報告・協議を行います。協議会からの意見や提言を踏まえ、新たな図書館の考え方をさらに充実させていきます。

■広報・ホームページ・SNS 等を活用した情報発信

広報かしわ、柏市ホームページ、図書館ホームページ、SNS 等を通じて、再編の目

的やスケジュール，基本的な考え方などについて，分かりやすく情報発信を行います。

これらのプロセスを通じて、『柏市図書館のあり方』を実現するための再編構想を市民の皆様とともに考え，つくり上げることを目指します。

その上で，令和８年度に正式な『柏市図書館再編構想』を策定し，将来を見据えた新たな中央図書館やエリア拠点館の整備，既存分館の機能転換など新たな図書館網の構築に向けて，着実に取組を進めていきます。